

2

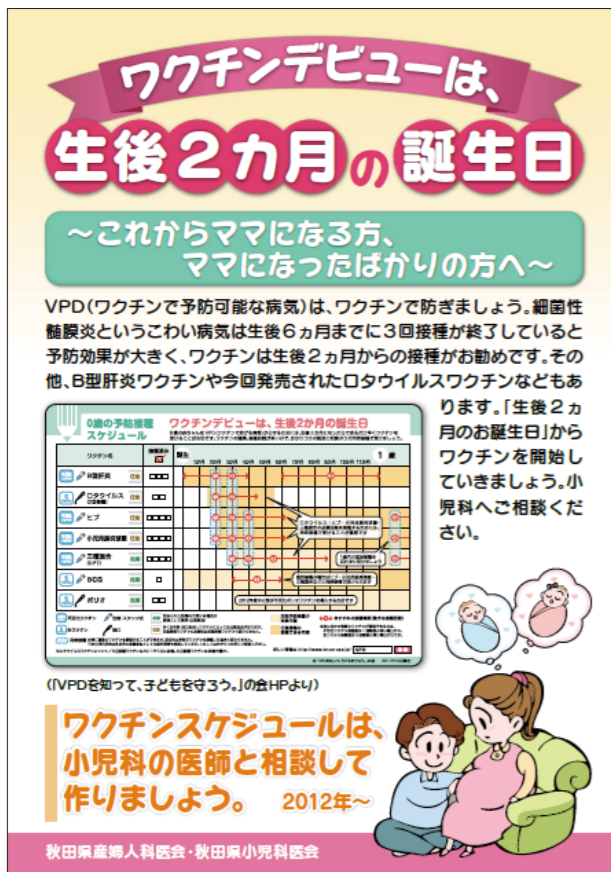
Topics

『ワクチンデビューは、生後2か月の誕生日』を推進するために ～自治体・医師会などとの連携による啓発事例の紹介～

2012年1月27日の厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会において、7種類のVPDの予防接種法上の位置付けが決められ、定期接種化にむけての確かな一歩が踏み出されました。VPDの予防のためには、ワクチンの定期接種化とともにいかに早期に予防接種をはじめめるかが重要となります。そこで、これまで「VPDを知って、子どもを守ろう。」の会(以下、VPDの会)と自治体や医師会などが連携している事例をご紹介します。

事例① 県の医師会、小児科医会、産婦人科医会が連携した取り組み(秋田県)

生後まもなく接種開始できるワクチンの増加、特に細菌性髄膜炎の予防には生後6か月までに3回接種を終えることが大切なことから、秋田県小児科医会では『ワクチンデビュー』のVPDの会の標語を使わせていただき、ポスターを作成しました。当初は、秋田県産婦人科医会の診察室でのポスター啓発を考えましたが、どうせ印刷するのなら、ということで県医師会全員に配布していただくことになりました。



秋田市では、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」の従事者の会議で(押しかけ)講演をさせていただき、ポスターをチラシサイズにして訪問時に配布してもらっています。また、地元のアきたテレビ(フジ系列)での番組「健康なんだかんだ」で予防接種をテーマに取り上げ、ポスターだけでなく、VPDの会のHPやスマホのアプリの紹介もさせていただきました。また、昨年秋田県医師会が配信している「予防接種電子マガジン」でもVPDの会のスケジュールやスマホのアプリを紹介しリンク可能になっています。

(市立秋田総合病院小児科・小泉ひろみ先生)

事例② 市医師会が出産退院時や1か月健診で資料配布(東京都小平市)

小平市医師会では、公立病院の出産退院時や産科での1か月健診でワクチン接種の早期開始を2011年から啓発しています。『ワクチンデビュー』のキャッチコピーが書かれたクリアポーチにVPDの会のスケジュールリーフレット*を含む資料セットを配布しています。市医師会発行のパンフレットには、ワクチンと予防接種スケジュールのたて方を解説しています。

医師会が中心に取り組むことで、早期接種のカギとなる産科へのアプローチが可能になり、2か月前に予防接種の情報を保護者に届けることが実現しました。配布をはじめから、生後2か月の来院される方が増えていると感じています。

(中山小児科医院・中山康子先生)

事例③ 自治体発行の育児冊子でスケジュール提案(広島県竹原市)

竹原市では、子育てに必要な情報や知っている便利な情報満載の子育てガイドブック「こそだて はてな ぶっく」を発行しています。予防接種のページには、公費助成のあるワクチン情報のほかに、VPDの会のスケジュールを掲載しています。2011年に掲載したところ、市民から好評をえたために、2012年も最新版を掲載する予定です。

(自治体担当者)



今回ご紹介したのは、全国で取り組まれている活動の一部であり、自治体や医師会のHPには、VPDの会のウェブサイト『KNOW★VPD!』がリンクされ、広報誌などにスケジュールを掲載いただいている事例も多くあります。生後2か月からワクチン接種を実施するためには、1か月健診で情報提供することが有効です。地域で産科と連携して予防接種の情報を発信していくことも重要です。『ワクチンデビューは、生後2か月の誕生日』を今後も強く推進していきましょう。

3

Report

会の活動をご報告します。(2011年11月～2012年2月)

2011年11月21日

厚生労働大臣
小宮山 洋子 殿

「VPDを知って、子どもを守ろう」の会 運営委員代表 蘭部友良
育児情報誌「miku」編集長 高祖常子
SSPE青空の会 会長 田伏純子
肝ったママ's 代表 酒井友理
細菌性髄膜炎から子どもを守る会 代表 田中美紀
子宮頸がん征圧をめざす専門家会議 議長 野田起一郎
プロピオン酸血症とメチルマロン酸血症患者の会(PA-MMAの会) 代表 柏木明子
ポリオの会 代表 小山万里子
ムコネット Twinkle Days 代表 中井まり

VPD(ワクチンで防げる病気)から子どもたちを守るための予防接種法改訂に関する要望書

私たちは、ワクチンで防げる病気(VPD: Vaccine Preventable Diseases)で日本の子どもたちが生命や健康を脅かされている現状を鑑み、専門家、患者支援団体、市民団体などそれぞれの立場から日頃より啓発活動を行っております。

ここ数年、日本国内で接種できる新しいワクチンが増えています。しかし、多くのワクチンが任意接種であり、情報格差、経済格差に子どもたちの健康が左右される状態です。少子化傾向の現在、VPDから子どもたちを守ることは、国の宝である子どもを守ることであり、日本の将来を守ることに相違ありません。また、子育て支援の観点からも極めて意義があることです。

つきましては、主に子どもたちが受ける予防接種について、以下のとおり要望いたします。

記

1. 予防接種法を改正し、現在、任意接種で自己負担となる、ロタウイルス、ヒブ、小児用肺炎球菌、おたふくかぜ、水痘、インフルエンザ、子宮頸がん、B型肝炎の各ワクチンを早急に定期の予防接種(一類疾病)に定めていただくこと。
2. 「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」の対象である、子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌の各ワクチンが、定期の予防接種(一類疾病)に定められるまで助成を継続すること。
3. 先進諸国で広く使用されているワクチンが日本でも早期に使用できるよう、不活化ポリオ、小児用A型肝炎、及び各種混合ワクチンを迅速に審査・承認すると共に、定期の予防接種(一類疾病)に定めること。
4. 日本の将来を担う大切な子どもたちを、VPD(ワクチンで防げる病気)から守るという国家の意思を明確に示すよう、法体系の整備を早急に行なうこと。

以上

厚生労働大臣にむけて要望書提出



2011年11月21日(月)、当会が「細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会」「子宮頸がん征圧を目指す専門家会議」など計9団体に呼び掛け、予防接種法を改正してヒブなど8種類のワクチンを定期接種に位置付け、接種費用を公費負担とすることなどを求める要望書を小宮山洋子厚生労働大臣にあてて提出しました。

提出後は、厚生労働省記者クラブで共同記者会見を行いました。



11・10「希望するすべての子どもたちに世界標準のワクチンを」デモ行進に参加

2011年11月10日(木)、「細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会」と共同でデモ行進を実行しました。趣旨に賛同した小児科医、患者会、保護者など総勢100名が、六本木から厚生労働省前の日比谷公園まで約2キロの道のりにおいて、すべてのワクチンの定期接種化、髄膜炎ワクチンの助成継続など訴えました。

デモ行進後は、小宮山洋子厚生労働大臣と面談し、全てのワクチンの定期接種化を訴えました。

出演 & 記事 & 取材協力

2011.11
2012. 2

- 北海道新聞(2011.11.20)
- Asahi.com(2011.12.13)
- ひよこクラブ2月号(2012.01.15)
- 丹波新聞(2011.12.04)
- 共同通信47ニュース(2012.01.24)
- アイラブママ3月号(2012.02.15)
- 日本経済新聞(2011.12.09)
- 読売新聞医療サイト(2012.01.30)
- ロハスメディカル(2011.11.10)
- 朝日新聞(2011.12.13)
- WirelessWire News(2011.12.27)
- Happy Note 2012年特別編集号(2012.12.01)
- 日本医事新報(2011.12.17)
- NHKニュース(2011.11.10)
- クリニックばんぼう2月号(2012.02.01)
- しんぶん赤旗(2011.11.21)
- 南日本放送 日本医師会テレビ健康講座(2012.01.28)
- 秋田テレビ「ワクチンで予防できる子どもの病気」(2012.02.17)
- ベビカムオンライン(2011.11.22)